

## 解答

問一 母が亡くなってから、生きていくことへの実感や意欲がうすれ、自分は本が好きだということすら忘れてしま  
い、読みたい本もなくなってしまったから。また、本屋に並べられた本が本好きであった母親を思い出させ、つ  
らくなるので、本屋に足が向かなくなったから。

問二 「彼女」が見ていた本を手に持っていたら、「彼女」に興味を持ってぬすみ見ていたことが、「彼女」に知られて  
しまうと思ったから。

問三 自分が放課後、商店街を「彼女」と歩いているところを上別府に見られてしまった。好奇心を持たれてあれこ  
れ聞かれたり、ひやかされたりするのではないかと恐れていたが、予想通り上別府がそれを話題にしてきたとい  
うこと。

問四 「彼女」と一緒にいたことを恥ずかしかってこまかしてしまったら、一緒に楽しく過ごした時間を否定するよう  
で、「彼女」に失礼なのではないかと思っただから。

問五 ① 「鼻が」 たかい ② 「鼻に」 つく ③ 「鼻で」 あしらう

④ 「鼻を」 あかす ② 「鼻息が」 あらい

問六 球技大会で大した活躍もできなかった自分を責めるどころか、長所を見つけようとしてくれる上別府と他の同  
級生たちの優しさがうれしく、また照れくさい。

問七 「僕」は母が亡くなってから、好きだった本にも興味がなくなり、転校先の学校の友達に対しても心を閉ざらな  
くなかった。しかし、「彼女」に本をすすめられたことで、本を読む楽しさを思い出すことができた。また、その  
本を介して、転校先の学校の上別府と話をするようになり、同級生たちとの距離も縮まっていった。そして、本  
屋に行く暇がなくなるほど友達との交流が深まっていった。このように、「彼女」のすすめてくれた本は、「僕」  
の世界を広げてくれた。

問八 済〔七〕 毎晩 期待 省〔いて〕

興味 体操 推測